

令和7年度 東秩父中学校 学校自己評価について

1 <生徒集計>

学年の格差は昨年度より小さくなり、評価値の平均は昨年同様全校で1.00を超え、わずかに下降しているが、引き続き良好と言える。

各学年の状況は次の通り

・1年生

16/23の項目で1.0以上。全平均値も1.08と昨年度の1年生より低いと2年生より高い。

比較的Aの割合が多いので、個々に見ると学習面、友達との関係や学校行事などの生活面共に満足度が高い生徒が多いことが分かるが、個人差、ばらつきがあるためこの結果となっている。進路の情報については、進学に関する情報と捉えていることは考えられないか？

・2年生

全ての項目で1.0以上 全平均値は1.49

学習面、生活面共に高評価と言える。昨年度より評価が下がった項目が多いが、多角的な見方ができるようになり、評価が若干厳しくなったことと、少人数による影響が大きいと考える。

・3年生

18/23の項目で1.0以上の高評価。全平均値も1.23と向上した。16/23の項目で昨年度より向上した。

ほとんどの項目において、AまたはBで回答している生徒が多く、学級満足度や自分自身についても多くの生徒が満足している生徒はかなり増加した。

特に低いのは、自分自身の理解に関しては、今後の課題である。

○昨年度に続き、学級内や委員会活動、学校行事等の集団における雰囲気は良好。その中で個々に責任を果たし、活躍できていると感じていることから安心感、所属意識は高いといえる。また、授業における教職員との関係は極めて良好であり、心理的安定が図られ、人的環境のUD化はさらに充実したといえるのではないかと。

●昨年よりはかなり上がったが、ひき続き、「自分の将来について」の評価が低い。

対策：特別活動の充実を図り、将来に見通しを持たせる指導、キャリア教育の充実を図る

●「自分を理解しているか」が低い。自己理解、自己受容、自己肯定が課題。

対策：引き続き、学級経営や教育相談等の充実を図る。人は他人を通して自分を受け入れる。構成的グループ・エンカウンターやソーシャルスキルトレーニング、アサーショントレーニング等、良好な交流を図る活動を積極的に取り入れる。

<生徒アンケート意見>

●一部否定的な意見があり、個の特性も考えられるが、真摯に受け止め改善を図りたい。

対策：引き続き、特別支援教育の充実、多様性の包摂を図る。

2 <保護者集計>

評価値の平均は1.49であり、昨年度よりさらに向上し、良好と言える。

- 教育方針の理解については、昨年度より高評価を得ている。
- 昨年同様、学習環境や安心安全については高評価を得ているのは、職員の日頃の取組が評価されている。
- 行事の充実は生徒の評価同様さらに高評価。50周年事業など保護者も参加して成功させたのは大きな成果と言える。また、一人一人が活躍できる場が保証されているとみてよい。
- 学校の様子広報活動や保護者へ連絡はさらに高評価。緻密な学級だより、学年だよりとメール配信の成果。
- 昨年度低かった主体的な学習と評価に関する項目は授業の工夫の評価の向上に伴い、大きく向上。
- 学習評価に関しても理解が得られ、高評価につながっている。
- 部活動の評価が若干下がっているが、人数の関係などによりやむを得ない。
対策：小中一貫教育や部活動の地域移行も含め、今後の放課後の活動について検討していく。

<保護者アンケート意見>

- 少人数による人間関係の固定化等を懸念する意見が複数あった。
対策：生徒数を増やすことはできないが、少人数だからこそできる教育活動について理解を求めるとともに、2月の熊谷富士見中とのオンライン授業などを積極的にアピールしていきたい。

3 <教職員の集計>

評価値の平均は昨年の1.28から1.35と向上し、引き続き良好といえる。

- 学校教育目標へ関連付けた教育活動は1.3と良好
- UD化、誰一人取り残されない教育環境もさらに向上し、高評価
- 地域と連携についても向上し、高評価
- 多様性を学ぶ機会についても若干ではあるが向上している。
- 特別支援教育の推進と充実は大きく向上した。
- 職員間、学年間の連携は昨年度も高かったが大きく向上し、1.60と極めて高評価となった。
- 個々の生徒への配慮や支援はさらに向上し、1.6と極めて高評価である。緻密な教育相談体制の確立、包摂に対する理解、生徒の側に立った生徒指導の成果と考える。
- 授業と評価に関するものは、昨年度は特に低評価であったが、0.59から1.29と大きく向上した。今後は生徒への明確な提示についての研究が課題である。
- 総合的な学習の計画的な取り組みについても昨年度は低評価であったが、0.71から1.33と大きく向上した。総合的な学習の時間の目的やあり方に基づいた全体計画の見直しや年間指導計画の改善の成果と考える。
- 各学年の道徳通信の発行や道徳コーナーによる情報共有が有効活用され、道徳教育の推進の項目が1.00から1.29と高評価につながった。
- GIGAスクール構想に関する授業改善についてタブレット端末の仕様については評価が下降。
対策：ICT支援員の有効活用とタブレット端末の効果的活用事例の共有が課題と考える
- 災害への対応やその他食に関する項目、安全管理については昨年度の極めて高い評価だったことも

あり、今年度は下降したが、生徒の学校生活を支える土台は固められていると捉える。さらに、教員の不祥事根絶についても同様であるが、危機管理意識は保持できていると捉える。

- 小学校との連携の評価が下降し、最も低い評価となった。

対策：令和11年度の施設分離型小中一貫校の開校に向け、意識を高める必要がある。

職員や生徒間の交流は3学期に行われる機会が増えるので、一貫教育を意識したい。

<職員アンケート意見について>

○特別支援学級の名称について→B組、C組の表記については、前向きに検討したい。

- 多忙な行事について

対策：今年度は50周年等もあり、特に多忙感があったと思う。次年度の行事検討については2学期後半から毎回教務主任から企画会、職員会議で提案されているので、その都度協議をしていく。

- 小学校との事前の連携不足について

対策：どの行事にも両校に主担当がいるが、どちらが主でやるのかを明確にしてから進めたい。

日程調整など全体にかかわるものは教頭や教務主任が対応し、最終判断は両校長が行う。